

幼児～中学生の全体像①

	年少児	年中児
現在の子育ての気がかり	<p>ほめ方・しかり方やしつけの仕方が関心事。遊び食べや食事のぎょうぎなど「食事のしつけ」は、育児の気がかりの第3位。野菜は食べない、偏食やムラ食いなど「食事のとり方」が第4位。食の悩みは乳幼児期からの飲まない・食べない悩みから継続している傾向。</p>	<p>親子で交友関係が広がり、一番の気がかりの第3位は「母親自身の人間関係」。友だちづきあいも親子一緒なので、「子どもの親同士や近所づきあいに疲れる」が最も多い理由。育児のよき相談相手もいれば、悩みの種にもなるのが「近所の子育て仲間」である。</p>
保護者と学校の教育の役割分担 学校への保護者の要望	<p>子どもに身につけてほしいことを、家庭と学校でどのように分担してしつけや教育をするかについては、年少児・年中児・年長児の間にあまり差はない。就学以前ということでもまとめて結果を示すことにする。</p> <p>結果は二つの特徴を示している。一つは、「どちらかという家庭が教育する」という比率が圧倒的に高い項目があるということ。二つ目は「あえて教育しなく</p>	<p>てよい」という比率が比較的高い項目があるということである。</p> <p>たとえば、「起床時間・就寝時間などの生活習慣」「お年寄りや障害のある人への思いやり」は、前者の例であり、圧倒的に家庭の役割としている。</p> <p>また、「家での学習習慣」「スポーツ能力や体力の向上」「芸術面の才能を伸ばす環境を整える」は後者の例であり、就学期以降の段階と比べて、「あえて教育しなく</p>
家庭で心がけていること 家庭教育方針	<p>基本的な「あいさつやお礼ができるよう」なしつけを最も多くの母親が心がけている。次に多いのは「友だちづきあいの大切さを教える」しつけ。第3位には「起床・就寝といった生活リズム」のしつけがくる。「テレビゲーム時間」のしつけをする母親は学年中最も少なく14.0%。</p>	<p>「あいさつやお礼」のしつけがやはり第1位。「友だちづきあい」「生活リズム」も第2位、第3位を占めている。年少児の頃よりも「テレビゲームで遊ぶ時間」のしつけが行われるようになるが、まだしつけのなかでは低い割合である。</p>
子どもの学力・習い事・進路	<p>この時期までに、44.6%が塾・習い事を経験。今、習っているものは、①「通信教育」21.8%、②「スイミングスクール」11.2%、③「スポーツクラブ・体操」3.6%、④「音楽教室」3.4%。1か月の教育費（幼稚園・保育園を除く）は1万円未満77.3%、2万円以上5.5%。</p>	<p>塾・習い事の実験者は62.9%、6割を超える。今、習っているものは、①「通信教育」21.9%、②「スイミングスクール」19.2%、③「スポーツクラブ・体操」11.9%、④「音楽教室」7.6%。1か月の教育費は、1万円未満67.4%、2万円以上9.0%。</p>

年 長 児	小 1 生	
<p>小学校入学を控えて、給食への準備としての偏食の心配。また、ほめ方・しかり方も下のきょうだいとの関係を配慮しての悩みが目立つ。園や習い事などを通しての友人関係も安定してきたために、子どもの性格や態度からくる「いじめ」の問題も関心事にあげられている。</p>	<p>新しい小学校生活での「友だちとのかわり方」が最大関心事。いじめへの不安もあり、わがまま、気が強い、逆に引っ込み思案で内向的な性格や気質などが、親にとってはすべて心配の種。あいさつやお礼、就寝・起床時間など生活習慣の自立への気掛かりも急増。</p>	<p>現在の子育ての気掛かり</p>
<p>くてもよい」とする比率が高くなっている。発達に応じた役割分担と、発達に応じた課題という意識をここにみることもできるだろう。</p>	<p>小1生・小2生も就学以前とほとんど変わりがない。 「あえて教育しなくてよい」という比率が就学以前より低くなる項目が少しみられるくらいである。「家での学習習慣」「スポーツ能力や体力の向上」「芸術面の才能を伸ばす環境を整える」がそうである。親の教育意識が少しずつ顕在化していく時期ということにもなるだろう。</p>	<p>保護者と学校の教育の役割分担 学校への保護者の要望</p>
<p>「あいさつやお礼」「友だちづきあい」「生活リズム」の三つのしつけは依然として最上位。「目上の人への言葉づかい」や「家事の手伝いをする」しつけなどが上がってくるなど、小学校入学を目前にして家庭での教育やしつけがよく行われるようになってくる。</p>	<p>学校生活の始まりという重要な節目を迎えて、母親の心構えも新たになる。「子どもが家に帰ってくる時間にはだれかが家にいるように」という配慮を多くの母親がするようになる。生活変化に応じて「起床・就寝など生活リズム」のしつけも多くなるようになる。</p>	<p>家庭で心がけていること 家庭教育方針</p>
<p>塾・習い事の経験者は72.7%、7割を超える。今、習っているものは、①「通信教育」24.5%、②「スイミングスクール」22.4%、③「スポーツクラブ・体操」13.9%、④「楽器の個人レッスン」13.3%。1か月の教育費は、1万円未満56.2%、2万円以上10.3%。</p>	<p>塾・習い事の経験者は84.8%、8割を超える。今、習っているものは、①「スイミングスクール」34.3%がはじめて第1位に、②「通信教育」28.7%、③「楽器の個人レッスン」20.6%、④「スポーツクラブ・体操」10.1%。1か月の教育費（学校関係を除く）は、1万円未満48.7%、2万円以上12.8%。</p>	<p>子どもの学力・習い事・進路</p>

幼児～中学生の全体像②

	小 2 生	小 3 生
現在の子育ての気がかり	<p>小学校生活にも慣れて余裕が出たため、母親自身のこれからの生きがいや趣味、パートや再就職などへの関心が高い。また、子どもの習い事が整理・変化する時期でもある。アトピーや鼻炎などアレルギーや喘息の持病などが一番の気がかりの第5位に上昇していた。</p>	<p>子どもに目が届く反面、親の思い通りにならなくなってきたことで、どこまで関与してよいのかのためらいがある。箸の使い方やぎょうぎの悪さから始まり、子どもの健康なからだを作るための安心できる食材が少ない、食中毒への心配など食生活への不安感が高まる。</p>
保護者と学校の教育の役割分担	<p>〔小1生参照〕</p>	<p>このあたりで学校への期待が強くなる。学校の役割とする比率が、家庭の役割とする比率を上回る項目がでてくる。「スポーツ能力や体力の向上」「芸術面の才能を伸ばす環境を整える」がそうである。また、「友だちとのつきあい方」について、学校の役割とする比率も高くなっている。</p>
家庭で心がけていること	<p>母子ともに小学校生活に慣れたせいか、「子どもの帰宅時にだれかが家にいる」配慮や「生活リズム」のしつけは小1生よりは減少する。増えてきたのは「目上の人などへの言葉づかい」、そしてとくに、「テレビなどを見る時間」のしつけ。しかし上位は依然として「あいさつやお礼」「友だちづきあい」のしつけで変わらない。</p>	<p>「子どもの帰宅時にだれかが家にいるように」する配慮はまだ多くの母親が心がけている。「テレビゲームで遊ぶ時間」のしつけもよく行っている様子である。「あいさつやお礼」のしつけは相変わらず最上位を占めるが、第2位に「生活リズム」のしつけが入り、他の学年より多い。生活の幅の広がりへの対応であろう。</p>
子どもの学力・習い事・進路	<p>塾・習い事の経験者は84.1%、小1生とほぼ同じ水準。今、習っているものは、①「通信教育」32.6%、②「スイミングスクール」32.4%、③「楽器の個人レッスン」25.3%、④「習字」13.1%。1か月の教育費は、1万円未満40.3%、2万円以上16.8%。</p>	<p>中学受験予定者はこの段階で13.6%。塾・習い事の経験者は93.1%。今、何かを習っている子80.9%、8割を超える。二つ以上習っている子60.5%。①「スイミングスクール」34.3%、②「通信教育」28.7%、③「楽器の個人レッスン」22.8%、④「習字」17.3%。教育費は、2万円以上18.8%。</p>

小 4 生	小 5 生	
<p>テレビゲームに長時間夢中になり、外遊びをしない。男の子なのに家の中に引きこもっておとなしすぎるとか、女の子なのに言葉づかいが悪い、親の言うことは聞かずに自分の言いたいことだけを主張するなど、現在の子どもの性格や態度、様子にとまどいを感じている。</p>	<p>子どもの友だち関係の心配が一番の関心事。金づかいがあらいうと一緒に遊ぶことの悪影響、友だちとつきあうのにもお金がかかる消費時代の子どもたち。女の子同士の友だち関係やグループでの仲間はずれや中学受験勉強のストレスが交友関係へ与える影響なども心配。</p>	<p>現在の子育ての気がかり</p>
<p>他方、「友だちとのつきあい方」は学年が上がるにつれて、学校への期待は少しずつ下がっていく。子どもの発達段階が進むと、家庭や学校の役割ではなくなる課題がでてくることの一例ともいえよう。</p>		<p>保護者と学校の教育の役割分担 学校への保護者の要望</p>
<p>「手伝う家事を決める」ことや「目上の人などへの言葉づかい」のしつけが活発になる。「帰宅時にだれかが家にいるように」との配慮は次第に少なくなる。「教育に必要なお金はかけよう」と思う母親が増えるが、確かに塾や習い事をする子どもが小3生よりも多くなる。</p>	<p>「帰宅時にだれかが家にいる」配慮が中学生の母親と同じ程度に低くなり、生活習慣や自立の満足度は高くなる。補習塾や受験塾へ行く子どもも次第に多くなる。しかし「家事の手伝い」のしつけ、「テレビゲーム時間」のしつけもよく行われている。</p>	<p>家庭で心がけていること 家庭教育方針</p>
<p>今、何かを習っている子85.7%（二つ以上64.1%）、これらの値は小4生がピーク。内容は多様で、①「スイミングスクール」27.6%、②「楽器の個人レッスン」27.3%（小4生がピーク）、③「通信教育」22.0%、④「野球・サッカーなどのクラブ」20.4%。教育費は、2万円以上が4人に1人の26.0%。</p>	<p>今、何かを習っている子81.2%（二つ以上53.7%）。内容は、①「楽器の個人レッスン」23.4%、③「通信教育」21.2%、③「習字」18.4%、④「進学塾」14.5%。教育費は、2万円以上が3分の1の33.3%。勉強観では、「今は勉強することが一番大切」が17.7%。中学受験予定者17.5%。</p>	<p>子どもの学力・習い事・進路</p>

幼児～中学生の全体像③

	小 6 生	中 1 生
現在の子育ての気がかり	ファッションやスポーツ・ブランド、ゲームなど高価な物に囲まれる子どもたち。物を大事にしない、部屋は散らかし放題で、与えたこづかいはすべて使う金銭感覚。決まった子としか遊ばない、問題を抱える子とのつきあいなど「友だちとのかかわり」が一番の関心事。	勉強や成績が関心事だが、情報が少ないのが不満。男の子は学校のことをまったく話してくれないので、様子がわからない。女の子も反抗的で言葉づかいも悪く親の話は聞かないし、心の中が見えないので不安。子どもが急速に親離れしていくことに困惑している。
学校への保護者の要望	〔小3生・小4生・小5生参照〕	<p>中学段階となると、質問にあげた項目に「あえて教育しなくてよい」という比率が高まるものが出てくる。「友だちとのつきあい方」をはじめ多くの項目でこうした傾向がみられる。課題が中学以前の段階のものという判断が少しずつできたのであろう。</p> <p>学校への期待が高まるのは、比率は1割前後ではあるが「家での学習習慣」である。逆に、学校への期待が小学校段階</p>
家庭で心がけていること	勉強のことは子どもにまかせようと思う一方、「塾や習い事に通わせないと不安」になったり、「教育・進学面で流れに乗り遅れないよう」にしようという母親が増えてくる。中学への進級を控えて塾や習い事に通う子どもの割合も増える。「あいさつやお礼」のしつけ、「友だちづきあい」のしつけがやはり最上位。	生活は大きく変わる。「家事の手伝い」のしつけ、「テレビゲーム時間」のしつけをする母親は大幅に減少。「子どもと意見が違ってても親の意見を優先させる」ようなことも減る。しかし生活が変わったからか、「帰宅時にだれかが家にいるように」する配慮はまだ続けている。
子どもの学力・習い事・進路	今、何かを習っている子82.7%（二つ以上48.0%）。内容は分散し、15.0%以上が六つ。①「習字」19.8%、②「通信教育」18.5%、③「野球・サッカーなどのクラブ」18.1%、④「英語」17.4%。進学塾は16.1%で第5位。教育費は、2万円以上が28.6%。中学受験予定者17.8%。	勉強観で、中学に入り、「今は勉強することが一番大切」が31.9%と3割を超える。今、何かを習っている子65.1%（二つ以上28.5%）。①「通信教育」20.3%、②「補習塾」16.8%、③「楽器の個人レッスン」16.5%、④「進学塾」13.3%。教育費は、2万円以上が31.5%。

中 2 生	中 3 生	
<p>高校進学のための学力や勉強のペースができていないことへの不安感。子どもへの学力期待が高まる。塾通いなどで子どもの生活に余裕がない。子どもはそれぞれ部活動、遊び、勉強、無気力などに異なる個性が出る。子どもの進路も気になるが過干渉とうるさがられる。</p>	<p>希望の高校へ進学できるかどうか最大の関心事。受験前の子どもとの接し方や、どのように受験をとともに乗りきるかなど、子どもに合った学校や進路選びは親の問題になってきていた。鼻炎やアトピーなど「アレルギー」が一番の気がかりの第4位にあげられていた。</p>	<p>現在の子育ての気がかり</p>
<p>の7割台の比率から6割台に低下するのが「授業中騒いだり、立ち歩いたりしない」である。「将来の進路・進学先を考えると」、あるいは「夏休み中の勉強」も同様に学校への期待が高まっている。</p> <p>小学校までの生活習慣や態度を中心とした課題から教育中心の課題への移行がみられるわけである。</p>		<p>保護者と学校の教育の役割分担 学校への保護者の要望</p>
<p>「テレビゲーム時間」のしつけはさらに減少する。将来を考えて「塾や習い事に通わせないと不安」という母親は学年別にみると最も多く、補習塾に通う割合が増えることによくあらわれている。「あいさつやお礼」のしつけ、「友だちづきあい」のしつけは依然として最上位にある。</p>	<p>「帰宅時にだれかが家にいる」配慮は最も低くなる。「テレビゲーム時間」のしつけも最低になるが、同時に「家事の手伝い」のしつけもなくなる。「あいさつやお礼」のしつけは最上位だが、「目上の人などへの言葉づかい」のしつけが第2位に浮上。一方、「教育に必要なお金はかけよう」とする母親は多くなるが、「教育・進学面で流れに乗らなければ」という考えは中2生の母親よりは少なくなる。</p>	<p>家庭で心がけていること 家庭教育方針</p>
<p>今、何かを習っている子77.7%。進学塾が初めて第1位。①「進学塾」27.2%、②「通信教育」21.8%、③「補習塾」20.7%、④「楽器の個人レッスン」17.6%。教育費は、2万円以上が5割を超え52.4%。「今は勉強することが一番大切」は28.8%。子に四大卒以上の学歴期待が59.3%。</p>	<p>高校受験態勢に入る。今、何かを習っている子74.1%（二つ以上33.1%）。①「進学塾」40.4%、②「通信教育」20.9%、③「補習塾」14.7%、④「楽器の個人レッスン」12.1%。進学塾が4割に。教育費は、2万円以上が6割を超え62.1%。「今は勉強することが一番大切」も41.4%。</p>	<p>子どもの学力・習い事・進路</p>